

植え付け後の管理



4月下旬から5月上旬にかけて
植え付けられた野菜苗(種)が、順調に
生育をすすめるためにもこの時期の
管理は大切な作業です。



企画営農課 大西 康之

誘引

◆支柱立て・誘引

竹やプラスチック製の支柱に、つる状のものや草丈が長くなるもの、風で倒れやすくなるものを結束し固定することを誘引といい、根付いて大きくなってきたら結び付けます。

この際、きつく結ぶと生育を妨げたり茎に食い込んで折れやすくなるので、誘引するヒモを8の字形によじって固定します。



トマトの誘引

◆間引き

種をまいて発芽し、ある程度大きくなって混み合い、葉が重なり合ったり通気が悪くなったり、養分の取り合いをして、互いに生長を妨げて生育不良や徒長、病虫害に侵されることなどを防止するために間引きを行います。

◆水やり

日中の高温時の水やりは、急に地温が低下し根にストレスがかかります。必ず朝夕の涼しい時間帯にやるよう心掛けましょう。

やり方は、根を傷めたり土砂がはね返ったりしないようやさしく、また直接葉などにかけないように株元へやるようにします。

◆整枝・摘芯

枝や葉が茂り過ぎると、日当たりや風通しが悪くなったりします。また、枝が多いとその分、実は多く付きますが良い実が付かないこともあり、一本の樹につく枝の数を整え

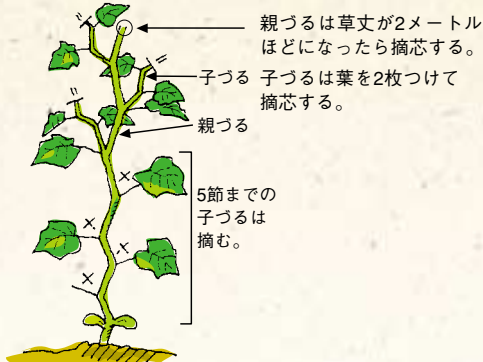
ることを整枝といいます。

また、生育の途中に一番伸びている先端の芽を摘み取り、脇芽や実の生長を促すことを摘芯といいます。



ナスの整枝・摘芯

一番花のすぐ下のわき芽2本を残して、主枝とともに3本仕立てとし、それより下のわき芽は小さいうちに摘み取る。



キュウリの整枝・摘芯

親づるは草丈が2メートルほどになったら摘芯する。
子づるは葉を2枚つけて摘芯する。

5節までの子づるは摘む。

整枝・摘芯